平成２３年度第９回しあわせ倍増プラン２００９市民評価委員会
会　議　記　録

Ⅰ　日　時　平成２３年９月２２日（木）１９：００～２１：１５

Ⅱ　場　所　浦和コミュニティセンター第１３集会室

Ⅲ　議事次第

１　開　会

２　議　題

（１）評価報告書の取りまとめ及び「評価報告会」の開催等について

３　その他

４　閉　会

Ⅳ　出席者

１　委員（１１名）（敬称略）

委　員　長　廣瀬克哉

委員長職務代理　長野　基

委　　員　伊藤巖、猪野智久、木島好嗣、栗原俊明、高島清、延原正弘、橋本克己、林美絵、三浦匡史

２　事務局（６名）

井上　靖朗（政策局総合政策監兼都市経営戦略室長）

三ツ木　宏（政策局都市経営戦略室副理事）

西尾　真治（行財政改革推進本部副理事兼政策局都市経営戦略室副理事）

中井　達雄（政策局都市経営戦略室参事）

藤澤　英之（政策局都市経営戦略室副参事）

鳥海　雅彦（政策局都市経営戦略室主幹）

１　開　会

○事務局職員

本日は、お忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。

開会前に申し上げます。

「しあわせ倍増プラン２００９市民評価委員会傍聴要領」の定めにより、傍聴人の受付をしておりますが、本日は、ただいまのところ１名の方より傍聴の申し出があり、既に入場していただいておりますので、ご報告申し上げます。

それでは、これより、平成２３年度第９回「しあわせ倍増プラン２００９」市民評価委員会を開催させていただきます。

なお 本日は、野﨑博行委員、福﨑智恵委員、町田直典委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。また、伊藤巌委員、猪野智久委員、栗原俊明委員から若干遅れる旨のご連絡をいただいております。

続きまして、本日の委員会資料について確認させていただきます。皆様のお手元には、本日の次第、座席表、市民評価委員会開催日程予定を配付いたしております。その他の資料といたしまして評価報告書イメージ、市民評価報告会の進め方について（案）、平成２２年度評価結果、そして第７回委員会の会議記録確定版、第８回の会議記録未定稿版の資料を配付しております。配付漏れがございましたら、お申し出ください。

恐れ入りますが、お手元の「市民評価委員会開催日程（予定）」をご覧ください。前回の委員会までで、「しあわせ倍増プラン２００９」に掲げた事業につきまして、追加ヒアリング事業を含め、すべての事業の評価をしていただいております。

本日の予定としましては、お手元の次第のとおり、「評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について」ご協議いただきたいと存じます。

なお、本日も、会議記録作成のための録音及び写真撮影をさせていただきますので、ご了承お願い申し上げます。

それでは、これからの議事進行は、廣瀬委員長にお任せいたしたいと存じます。それでは委員長、よろしくお願いいたします。

２　議　題

○廣瀬委員長

それでは、ここからの議事進行を執り行います。

議題の「(1) 評価報告書の取りまとめ及び「市民評価報告会」の開催等について」ということで、いよいよ全体の評価作業が一巡をいたしましたので、評価報告書の取りまとめ方、そして１０月１５日に予定されております市民評価報告会をどのように行うか、そして昨年は報告会での発表をできるだけ多くの委員で分担をしてやりましたけれども、今年も分担をしたいと思いますけれども、その分担をそろそろ確定する必要があると思います。

ではまず、評価報告書の取りまとめについてご協議いただきたいと思います。お手元に評価報告書（イメージ）が配付されております。それから、事務局から本日の議論のポイント等を整理した資料、評価報告書の構成イメージ・たた

たき台、Ａ３版の参考資料を用意してあります。
　これらにつきまして、事務局からまず説明をお願いしたいと思います。
○事務局職員
　お手元にございます資料ですが、前回までで評価の作業を終了しておりますので、まずは数字の報告をさせていただきたいと思います。Ａ３版のしあわせ倍増プラン２００９平成２２年度評価結果、昨年度との比較と題した資料でございます。左側の縦の項目は分野別となっており、それに対し横の行は２１年度、２２年度の評価結果及び２１年度、２２年度と比較しまして評価が上がったもの下ったもの、そして昨年と同じ評価のものを表しております。全体としての評価結果ですが２１年度の評価結果が６．８点であったものに対し、今回実施した２２年度の評価結果が６．６点と０．２点下った形となっております。
　また、２１年度と比べ「ｂ」から「ａ」へ、または「ｃ」から「ｂ」へと上がった項目が１３７項目に対し１７項目ありました。それに対し「ａ」から「ｃ」、または「ａ」から「ｂ」などと評価が下ったものが計２０項目ありました。右下の欄には評価が変わらなかった項目がありますが、「ａ」から「ａ」と変わらなかった項目が３項目、また「ｃ」から「ｃ」と未だ改善されないというか、目標が達成されない事業が８事業ございました。
　また、ベスト３、ワースト３につきまして下のほうに表しておりますが、最も高得点であったもの、最も低い点であったものということですが、最高得点が９．０で、４８－５番の緑のカーテン事業でございました。最も低かったのが０．６点ということで、多選自粛条例の制定でございました。
　前回の委員会では、時間等の関係で市民評価報告書についてご議論いただけなかった部分のおさらいと申しますか、構成イメージそしてたたき台という資料をおつけしております。この資料についてご説明いたしますと、前回までに委員さん方から報告書について、こういった形式であるとか、こういった考え方を入れ込んだらいいのでないかといったご意見をいただいたものを整理したものです。評価が低いものだけでなく評価が高いものも取り上げたらどうかといったご意見、またビジュアルで表したほうがいいのではないか、また、目標の変更、目標の見直しの必要性といった部分については委員長コメントのような形で提言をしたらどうか、また、ベスト３・ワースト３について載せる必要があるかどうか、といったご意見等をいただいたところです。また資料にあるとおり延原委員、木島委員からも追加のご意見をいただいております。
　続きまして、たたき台の資料でございますが、１３７項目の評価については、今事務局のほうで作業中でございますが、この項目の報告書への入れ込み方でありますとか、また今年は中間年ということであり、さらに今年は絞込みにより評価をしたという手法などを含めて、いくつかの評価報告の切り口を示しております。フィードバックに重点を置いた評価としては、遅れが生じている「ｃ」、「ｄ」といった評価項目に対しては改善方策のご意見をいただきました。
　また、進捗度「ａ」といった高い評価項目に対しては、さらに積極的に推進すべしと、また一方では目標設定が甘かったのではと目標の再設定も必要なの

ではといったご意見もあったところです。また、全体的な進捗、分野別の進捗については、ビジュアル的に表したらどうかといったご意見がありました。また、重点事業をピックアップして評価したらどうかということですが、今年は絞り込んでの評価ということで１３７事業に対し、約５０事業のヒアリングをしたわけでございますが、重点事業を絞込んでの評価ということについての整理には、また別途協議が必要になるのではないかということでございます。

また、各分野における総括コメント、例えば市民、地域との連携であるとかネットワークづくりが重要であるとかさまざまなご意見なども個々にいただいておりますが、そういうような定性的な評価を入れ込んだらどうかということですが、これについても別途協議が必要であるといったところです。さらに、評価の枠組みという中では、目標の変更、目標の見直し、適正な目標の設定といった評価のあり方に係るご意見を提言という形で報告書に入れ込んではということでありました。いくつか評価の切り口という形でお話いたしましたが、本日はこの辺について報告書にどううたうか、また報告会でそれをどう活用し発表していくかといったところをご議論いただきたいと思います。

もう１点の資料ですが、評価報告書のイメージというものがございます。本日は、報告書の素案という形でお示ししたかったところですが、申し訳ございませんが、事務局といたしましてまだ整理がついていない部分等ございまして、本日はイメージという形で資料を作成しております。基本的には、昨年度の報告書を基本に作成しております。内容としましては、５ページにおいては今年は今年度実施した評価手法を記載しております。６ページ、７ページあたりの評価結果のところでは、表やグラフを用いてビジュアル的にインパクトあるものにしております。８ページにはベスト３、ワースト３ということでこの辺に入れてはどうかというふうに考えております。９ページからは、分野別評価ということで総括のほか以降個票のような形で評価を載せておりますが、１０分野あるのですが、このような体裁で載せますと、ただ今、作業中ですがこの分野別評価の部分は、おおよそ３０ページ相当になるのではないかと思います。

そして、昨年と一番違う部分としては１１ページのところですが、題して２２年度の評価の総括というところですが、先ほどたたき台の説明で申し上げました部分ですが、フィードバックに重点を置いた事業に対する改善方策等について総括的にご意見をいただきたいと、そしてまた、今後の評価のあり方、目標修正等についての提言を、ここの総括の章の中に入れてはどうかと考えております。

次に、評価を終えてということで委員さんの所感を載せるということで、本日その様式を机上に用意しておりますが、委員さんのこれまでの評価委員会でのご協議等を終えての考えやお気持ちなどの所感をここに載せていただけたらと考えております。１３ページ以降は資料編になりますが、２４ページ、２５ページをお開きください。評価の集計結果を載せております。「ａ」と「ｂ」を足し込んだ結果としては８割程度となり、順調に進んでいるといえます。内部評価と外部評価を比べますとあまり変わらなかったということですが、達成度、進捗度とも昨年度より若干下がったということであります。

本日は、この報告書イメージ及びたたき台をもとに報告書をどのようなスタイルにするか等についてご議論いただきまして、事務局としては本日の結果を受けまして報告書のつくり込み作業を開始し、次回委員会までに素案をつくりお示ししたいと考えております。以上でございます。

○廣瀬委員長

ありがとうございます。おおむね報告書については、昨年の報告書の構成を踏襲しつつ、論点としては２年目になりましたから、昨年と今年の違いというのは前年と比較できる点にあると思います。また、前回少し議論しましたフィードバックとかいったことも踏まえて、イメージをつくっていただきました。これをどういう構成で最終的に仕上げていくかは、今日の段階で固めないと作業が間に合わないということなので、その点について議論を進めてまいりたいと思います。

まず、この構成イメージ、そしてその後のたたき台というところでは、前回の委員会での議論や指摘事項等、それから前回示されたものをブラッシュアップいただいたものをたたき台という形でこういう要素があるということなのでしょうが、このあたりについてそれぞれ確認していく必要があるのかと思います。それを踏まえて報告書の構成を固めていくということになると思います。

まず、前回の議論としては低い項目だけでなく高い項目、昨年との比較、それから全体を比較しやすいようにできるだけコンパクトに表にする、それからだんだん新しい課題とかそういうものが見えてきているので、評価のあり方や目標設定のあり方について２年目の評価を踏まえての提言ですとか、それからベスト３・ワースト３については、ここでは全体のボリュームが増えるようであればむしろそれは載せなくてもいいのではないかということもありました。

また全体として、前提になる認識として今日の冒頭でも少し出てまいりましたけれども、２年目についての評価ということですけれども、来年の評価委員会が終わりますと、もう次の年を待っての評価ということでは任期の交代も挟むということもありますので、それからこれからフィードバックをかけて修正をしていくということにすると、今年の報告書からのフィードバックということで実際の取組に反映をしていっていただかないと、今年度の実施過程は半分ぐらい済んでいるわけですから、もうこのタイミングで評価に基づいたフィードバックということはラストチャンスで、次の評価というのはどちらかというと振り返って総括するとどうであったかという方向におのずとなるのかと思います。その点からも今年は、やはりある程度実際に仕事が始まった段階を初めて評価をするということと、今後の修正ということで言うと今年のタイミングでちゃんと言っておかないと来年の評価で言われても、もう実質最終年度の仕事は半分過ぎているので、そこからではもう間に合わない、というポイントを押さえて全体の構成を確認していく必要があるのかと思います。

ということで、委員会として基本的な考えとしてこういう方針で報告書を構成していくということで、前回の指摘事項あるいはその後で出していただいた延原委員と木島委員からの意見が追記されておりますけれども、さらにこれに追加されるものあるいは補足説明が必要なものがありましたらご発言いただ

きたいと思います。
　全体進捗のビジュアライゼーションですけれども、具体的にこういうのがあったらいいな、というようなイメージとか何かヒントになるようなことはございますでしょうか。
　昨年の報告書の３ページですとか、それから４ページ、５ページのところは重要度で今年はやらないということで、３ページの上それから４ページあたりで去年の段階で全体の状況を示そうということで素朴にグラフにしたという感じは少しありますけれども、それからその意味で言うと、昨年から今年にかけての評価の変動という観点で取りまとめてみた一つのサンプルが参考資料としてつくっていただましたＡ３版の資料ですが、これは全体像を去年と今年の体系の中で表現をするとしたらこのような形でどうかということだと思いますが。
○延原委員
　去年の報告書が完璧とは思わないのですが、基本的にこれを踏襲して構わないと思います。項目を若干足したり減らしたりし、２１年度と２２年度評価比較表をはめ込めれば多分いいのだろう。紙ベースのビジュアライズというか、体裁としては皆さんにお配りするものはそんなに大幅に変えなくてもいけるのかと思います。もう一つ、今日事務局から配られたイメージの案の中で、これはすごいなと、よくこれを取り上げてくれたなと思うのが、１１ページの（１）の改善方策のフィードバックに重点を置いた評価というところで、「ｃ」または「ｄ」評価項目について改善方策を取り上げたらどうかというところです。我々の主たる仕事は評価をするだけなので、その改善方策というのは議論の中で取り上げるというところまでは踏み込んでいなかったのに、事務局はよくこれを書いてくれたと思います。ぜひ改善策をはめたいと思います。
○事務局職員
　そこがイメージの話なのですけれども、個別の事業についていろいろ議論があったりとか評価シートでコメントをいただいたものの中で、改善方策の意見をいただいたものがありまして、それは個別の項目のところにコメントとして書き込ませていただきますが、全体としてはなかなか難しいところではあるのですけれども、若干定性的にならざるを得ないかなと思っているのですが、評価報告書の構成イメージは３枚目にたたき台として前回もお示ししたところですが、いろいろトータルで振り返ってみると、やはり「ｃ」「ｄ」がついているものはどういうものだろうかと考えてみると、いくつか特徴があります。
　全体として行動宣言とか行革とかは、市でやればいいということで割と７点に近いスコアがついていまして、ただやはり市がやるのではなくて、市民の皆さんにいろいろやっていただくために、いろいろな団体とか関係者と調整しなければならないものについて、やはり遅れがみられる。それは、やはり市役所がしっかり汗をかかなければいけないものであったりとか、あるいは市民の皆さんに利用していただく事業で、目標は設定したけれども達成が遅れているものなどがあり、これはちゃんと市民の皆さんに利用をしていただくと、要は市はちゃんとやっていると市民の皆さんにお伝えするような努力をしなければ

いけないということです。そういう定性的な感じにはなろうかと思いますけれども、それは遅れているものの共通の要素として、いくつかそういうものがあると思いますので、そういったものはやはり委員会としてご指摘をいただければと思います。

個別項目の評価というのは、各所管は見ますけれども、ほかの人達は見ませんので、言い方があれですけれども、所管の各課と我々しか見ませんから、総括的なものをいただければ市役所全体として受け止めることができるのかなと思います。

○延原委員

ですから、これをドラフトとしてよく出してこられたなと。事務局が一番抵抗するのはこういうところではないのかなと思っていましたので、逆に。ここは、定性的であろうとはめ込みたいなという感覚はあります。

○廣瀬委員長

改善方策とまで言えるかどうかというのはあるのですが、いわば遅れの原因分析、ここでもう少し掘り下げないと次のステップにいけないのではないかという指摘、性質をここに挙げていただいているのかなと思います。ここに挙げていただいた相手方の問題であったり、目標設定や工程表のつくり方そのものに難点があったとか、どちらかというと改善というより、そこをもう一回追求すれば当然改善方策は見えてくる部分はあるにしても、それ自体が改善そのものではないのでしょうね。

○事務局職員

その中でどれくらい書くかということなのですけれども、例えば木島委員から意見をいただいたガントチャートですが、項目によっては割とちゃんと書いてあるものもあれば、割といい加減に工程表をつくっているようなものもあって、これは目標の見直しとかいうことも合わせて、あと工程管理する中で工程をもっとちゃんとつくるべしと言うところなどもあるのかなと思います。それから関係者との調整というところの中では、これはいくつかトータルの何回か意見が出てきたかと思いますけれども、例えば伊藤委員からありました自治会などの現場の話をもっと市役所の職員が見るべきではないかというような意見がいくつかありましたけれども、三浦委員からも地域で活動しているＮＰＯなどの実態を把握できていないのではないかというご意見もありました。多分そういうあたりが関係者の調整というところで遅れを生じさせている要因なのかもしれません。

そういったところを、先程私はある程度抽象的に申し上げましたけれども、何回か具体的な局面として、今まで８回議論をしていただいた中で繰り返してきたものもあろうかと思いますので、そういったものをもうちょっとどの程度書けるかということもあると思いますが、入れ込むということは会議をやったという一つのアウトプットになるのかと思います。

○林委員

前回いただいた市民評価報告会アンケート参考というものを今日電車の中で見てきたのですが、非常にグラフも多いですし、文字の間隔も非常にわかり

やすいです。何ともいえない感じで、文字ばかりでも読んでみようかなと、意見とか口語体であったりとかするせいもあるかもしれませんが、昨年の報告書は初年度ということもあって、比較する年度がなくてこの年だけということで、文字もそんなに小さくはないと私は思うのですが、ちょっと読みづらいのかなというのを感じるところなので、このアンケートのまとめのような感じにならないかなと思っています。読んでいきやすいようなイメージでやっていただけたら、きっと会場の皆さんもわかりやすいのではないのかなと思います。

○事務局職員

昨年はアンケートにもありましたけれども、報告会が報告書を見ながらで、プロジェクターに映したのが評価シートそのものだったので、後ろの方からでは下の方が見えないといった会場からのコメントがありましたが、報告書のつくりのところもあります。それから、実際、報告会で報告書と同じページを見てくださいというのもありましたけれども、もう少しパワーポイントで見やすいもの、わかりやすいものをつくって、それを報告の中で説明していただくという工夫もあるかなと思っております。昨年は、そこまでとても手が回らなくて、実質的に報告書を読み上げていただくといいますとあれですけども、その報告書の文字が多いというところはもう少し工夫したいと思います。

○林委員

昨年は、やはりこれで良いと思うのですけれども、今年はもう少し工夫をするとまたちょっといい進捗レポートになると思います。

○木島委員

中身の話に行く前に、まず全体構成をまとめたほうが良いとおもいます。まず流れとしてこのイメージをつくっていただいたのは延原委員の意見と同様に賛成で、大体こういう流れでいいと思います。全体があって、分野別があって、いくつかピックアップして個別に考えるのか、それとも市民の方が興味を持っていらっしゃるものが選定できるのであれば、そういったものが個別に出せるとよいのではないかと思って、もう少し掘り下げてみてはと。それともう一つが先程の評価の今後の進捗というか、先程委員長が言われたような改善につなげるための、かつ我々の提言というものを入れる。構成として流れはこれでいいのではないかなと思っております。

○廣瀬委員長

まず、全体を概観してどうだったかは当然冒頭に出てくることで必然なのですが、次を分野別という形でいくのがわかりやすい、伝わりやすい、メッセージが見えやすいのか、もちろんプランそのものが分野別に編成されていますから、そういうことに従っていくのは自然なことではあるのですが、２年目の報告書として、例えば進捗というか、上がったもの下がったもの、以前どおりであったものといったＡ３版資料にあるような形で、伸びたものについてこういう点で伸びています、こういうところで伸びていますという高評価と、それから残念ながら下がってしまったという、特に「ａ」から「ｃ」というのがいくつかありますから、そこにどのような課題があるというか、そういう良くないもの、それから高い評価を維持したものもあるし、なかなか低い評価から脱却

できなかったものもあるといったような、昨年との比較の中で、「ｂ」から「ｂ」というのはある意味、一番数の上では多く主流なのだけれども、そこはあまり注目をせず、変化が起こったところ、あるいは高い評価や低い評価でその変化がなかったものを押さえていくというのも、一つの表現なのかなと思います。

昨年はとりあえず、まず分野別に編成された計画の評価でしたし、その中でこの項目ができたけれども、こっちはなかなかうまくいかなくて全体としてはこうだった、それほど劇的な差はないのですけれども、章立てというか分野別の違いというのは多少は出てきたということで編成しましたが、改めて見てみると、２０いくつの事業で編成されているものもあれば、非常に少ないものもあるので、一番少ないのは「地域間対立」のところで３つ、「市民・自治」のところで３つというように、分野としては宣言２つと領域８つということで、ある意味並列的になっているけれども、実はボリューム面では相当違うところがあります。その辺から分野でいくのか、それとも分野でない切り口で特徴的なものを選び出すのかがあると思います

○延原委員

委員長コメントに対して後者の案を支持しますけれども、落ちたものから上がったもの、「ｃ」のままのものは大問題で、そういうものが全面に出てくる構成のほうが評価委員会としていいのかと思います。項目ごとにワースト３、ベスト３に注目を浴びせるよりは、悪くなったもの、よくなったもの、それと「ｃ」のままのものを挙げて比較を論じる。その比較を論じれば、先程の提言をドラフトのところにうまくつなげられると、今の委員長の話を聞いているとそのような感じがします。

○木島委員

基本的に賛成なのですけれども、あえてお聞きしたいのですが、比較ももちろんすごく大事だと思うのですが、一方で単純評価、それがよかった悪かったという視点というのがそれだと見えなくなってしまう可能性があると思います。「ｃ」から「ｂ」というのは一見よくなったという比較なのですけれども、所詮「ｂ」という見方もできると思います。単純評価、単純によかった、悪かったという評価が抜け落ちない見方もどこかでつくってほしいと思います。それからもう一つ、掘り下げていくには今の方策が一番いいと思うのですが、比較のところから提言に結び付けていくという流れはすごくいいと思うのですが、最初に全体像を見せるところで、分野別というのがあってもいいのではないかと思います。

○廣瀬委員長

ああ、そうですね。

○事務局職員

今、イメージをお配りしたものの中で、６ページは全体でその「ａ・ｂ・ｃ・ｄ」の４段階で表しただけのものですが、７ページはスコアしか入れていないのですが、本当はこれはある意味、４つ全体像の「ａ・ｂ・ｃ・ｄ」の４段階のスコアと分野別の４段階の、今グラフではなく表で示していますけれども、これのグラフのスコアが多分一番はじめにあって、木島委員がおっしゃるよう

な総括として、我々として言うのはあれなのですけども、一応の受け止めとしては８割「ａ」又は「ｂ」という形でいただいたことは、一応そこそこはやっているのかなと受け止めさせていただいているのですが、ただ去年よりスコアの部分で下っている部分があるというのは、やはりいろいろな意味で改善点があると。それを一体何だろうということで掘り下げていく、先程委員長から話があった動きがあったものをやってみる、あるいは分野別になめて見てみると何か話が課題として浮かび上がってきて、それを最後のところで提言としていただくという感じのストーリーになるのかなと、今話を聞いていて思いました。

○延原委員

きれいですね。

○廣瀬委員長

６ページ、７ページは、ある意味もう少し情報を追加したり、ビジュアルにするという工夫はしたほうがいいかもしれませんが、確かに３の分野別を外すということはないですよね。

○木島委員

ビジュアルについては、私も答えがなかなか出ないのですが、先程委員長が言われた分野によって厚みが違うといいますか、数が少ないのもあれば大きいのもあるというようなものは、このグラフの線の太さとかでも、少し表せるのではないかなと思います。こんな感じで矢印の幅といいますか、いっぱいあるところはこの矢印の幅の大きい線で表す、というのも一つの工夫になるのかなと思います。

○廣瀬委員長

そうすると、絶対事業の分量と評価が、ある意味、面積的にも表現できてくるのかなと思います。

○木島委員

とにかく市民の方が見たときに、それが進んでいるのか進んでいないのかが最初に知りたいのではないかと思うので、それをビジュアルで表現できればいいのかなと思います。それから分析に入っていったほうがいいのではないのかなと思います。

○三浦委員

今、議論をうかがっていて、もう一度目次を見て思うのですが、２２年度の評価総括を分野別評価の後ろに回さずに、目次の６と５の間に入れてしまって、６の分野別評価は個別の一覧表に近いものとしては、評価の定性的な論説に近いものは全部前に持ってきてはどうかと思います。そうすると報告会のときも、多分そこで報告すべきことが尽きるのではないのかなと思います。

去年の報告会は、分野ごとに役割分担をして、それぞれの分野で同じぐらいの時間配分をしたのですが、事業数のばらつきもあるし、同じように発言するという意味では進行はわかりやすかったのですけれども、もう少し時間をかけて報告したほうがいい分野というかポイントがぼやけたりすることがあったと思いますし、長野委員がご報告する役割になった総括的な部分が、後ろの報告者が入れ替わり立ち替わりで時間をとった関係で、あまり報告会の中でクロ

ーズアップしなかったのではないかという気がしています。
　何人か報告会に参加してくれた知人に後で感想を聞いたのですが、結局ポイントが何だかよくわからなかったと言われることもあったので、個別事業のこれがどうだこうだというのも含めて、６の分野別評価より前に、先程延原委員がおっしゃったように、伸びたものとか遅れたものとか、個別に取り上げたいものは取り上げて、一回報告書を完成させたほうがいいのではないかと思います。
○廣瀬委員長
　今回イメージとしてサンプルページをつくっていただいておりますけれども、昨年並みのボリュームにおよそなっていくのかと思うのですけれども、そうすると昨年の報告書でいうと１２ページから４９ページまで、真ん中のところに大半のページが各項目についての評価結果の一覧表になりますので、それをまたいで手前と後ろにあるよりは、詳細はここから後ろの資料編ではないですけれども、詳細一覧部分、その詳細一覧を我々は作業としてやってきたけれども、そこから抽出したポイントはこれというのを前半にまとめるということでしょうか。
○延原委員
　去年の会議記録では、長野委員長職務代理の発表がメインですね。ここで言いたいことをすべて言ってしまうと、あと細かいことは各委員が少しだけしゃべると言うことでも構わないと思います。そうするとシンプルになって、聞く方がわかりやすくなると。
○栗原委員
　いろいろ今まで発言された内容とかぶってしまうかもしれませんが、少し自分でもまとめるためにも発言させていただきたいと思います。大体皆さんがおっしゃったようなやり方でいいと思います。去年の報告会の後で思ったのですが、これ端から聞いていたときにこれわかるのかなと。わかるのかわからないのかというと、どちらかというとわかりづらいのではないかと思うのですよね。会場の都合で後ろも見えないでしょうし、そういった部分もあってなかなかわかりづらいのだろうなと思います。形式的なものになってしまったのではないのかなというとことがあるので、やはり重点を置いて、細かいところはばっさりいって、細かいところはあとでこれを見てくださいと。というところまでシンプルにやっていいのかなと思います。イコールそれはどうするのかなというと、評価委員会ですから評価をするところですけれども、何か主張するところは主張することでいいと思うのです。評価は別ですが。これも重なるかもしれませんが、去年の評価と今年の評価で明らかに遅れているものと上がっているものをピックアップして、何かその問題点を指摘する。何となく重要なのかと思うのが内部評価と外部評価と明らかに乖離があるものがあるではないですか。それが何だったのかということを考えてみてもいいのではないかと思うのです。実は評価委員会が市民を集めてそういうのをやるというのは、そこにあるのかなという気がします。その辺から論じてもいいのかなと思います。
　ビジュアルといったところについても、分野別の７ページのところの表のよ

うなもので、これがもう少し見やすくなればいいのではないかなと思います。個人的には、もう少し表の太さとか棒の太さとか、これはいいアイデアだと思うのですが、これ以上複雑になるとわかりづらくなってしまうのではないのかなという気がします。ぼくは、全く文系の人間なので表というのはよく知らないのですが、何かいい表があるならそれなりにと思うのですが、これ以上太さが加わってしまうとわからなくなってしまうのではないかなというのが個人的な意見です。可能であれば口頭でフォローする、それぞれの分野ごとの説明のときに、こういう評価になっていますが総体的に数が圧倒的に少ないので、というのはフォローできるのかなと思いました。

○三浦委員

個別のアイディアで恐縮ですけれど、この７ページのスコアの表なのですが、標準が７点なので思い切って、７点から上に伸ばすか下に伸ばすかという表にしたらどうかと、個人的に思います。皆、棒が下から長いので。ほとんど下に伸びるのですけれども。

○延原委員

理系的にいうとインチキなのですけれどもね。文系的にいうと正しいかもしれない。

○三浦委員

ビジュアルという点で表にするならば、ということです。

○林委員

でも、それはわかりやすいですかね。

○事務局職員

別の表を私一回つくったものがあるのですが、要はＸ軸を４．０にしたのです。

○延原委員

それはいいかもしれないですね。よくやる手です。

○木島委員

もしくはプラスの意見として、思い切って前年比の表は別にするというのもあると思います。

○事務局職員

それはあるかもしれませんね。この表はデータが４つあるのです。前年度の比較を内部評価の比較ということで、４つの情報を全部入れてしまってあるので、これは少し情報過多なグラフになってしまっています。

○木島委員

ここは延原委員に。

○延原委員

多分、木島委員が現役のサラリーマンなので、営業活動で売り込みに使う表のつくり方だったらそれが一番いいと思います。ものすごくきれいなものをつくるのでは。

○事務局職員

今、栗原委員がおっしゃられた中で内部評価と外部評価の乖離があるという

ことですが、確かにそれも気がつきましてですね、いくつかやってみました。外部評価というのはいわゆる委員さんの平均ですので７点いくつとか小数点第何位という形になるのですが、内部評価というのはそういう形ではなくて切りのいい数字でやっていますので、例えば２０いくつとかあるものは平均されるのですが、さっき言いました３つとか少ないものは、どうしても正しい差がはっきり出ないのですよね。外部評価と内部評価の差というのが。内部と外部の乖離をどのような理由があるのかということで、いいアイデアだと思うのですけれども、ちょっと数字で見たときに難しい部分もあったのかなという気もします。

○木島委員

それは、分野別比較という意味で３つとかいうことでしょうか。

○事務局職員

３つのものの内部と外部の比較ということです。

○木島委員

栗原委員の意見を聞いていいなと思ったのは、より細かく見たときにいきてくるのかなと思いまして。分野別のときはあまり効果がなくなってしまうのかなと思いますが。

○事務局職員

全体としては結局０．１点しかスコアがずれていないのですけれども、確かに個別に見ていくとその乖離が大きいのがあって、一番乖離が大きいのは確か高齢者サロンのように、内部評価で評価を変えたものはおかしいという形でもう一回評価をし直していただいたら、乖離が出ましたというのがありましたけれども、そういう乖離が大きいものをいくつか見て、それを分析するというのはやり方としてあるとうまく出てくるのかもしれません。どちらかというと、それは来年度の我々の内部評価の仕方にフィードバックができると思います。

○廣瀬委員長

「ａ・ｂ・ｃ」のランキングそのものでも、内部で「ａ」だったものが委員会では「ｂ」で８点ぐらいというその捉え方の違いといいますか、がんばってはいるけれどもこれは「ａ」ではないだろうという違いが出たものがいくつかあって、それが一番の高齢者サロンについて言うと、前回やりましたけれども、捉え方であるとか、市の施策としてどうなのかという観点からいうと、内部としてもこうですねと、その意味ではある種認識の一致はできたのかなと。そうやって内部評価が「ａ」とされてきた中で、それを「ａ」と言ってしまうのは違うのではないのかという項目が大きなポイントだったのではないでしょうか。

○栗原委員

仮に、もし今の話は数値にするとなかなか精度が低いということであれば、総括のときに言葉でもいいのでこういった問題が結構論じられたというところを入れていただけると、次のフィードバックになるのかなと思います。

○事務局職員

去年は、確かにずっとべたっと内部評価と外部評価の差に着目した報告であ

って、来場者からのアンケートからもそういったご指摘もあって、今回はあまりそこにスポットを当てないようにしようかというふうにつくったのであって、べたってやると少し問題があるかもしれませんけれども、そういういくつかポイントになりそうなところで内部評価と外部評価のギャップをコメントすることで少し分析をしたいと思います。

○三浦委員

今の視点ですけれども、昨年担当した分野の報告コメントするときに、私は内部評価と外部評価のポイントに開きがあるものを、プラスもマイナスも開きのあるものをピックアップして、そのときに委員会で議論された、なぜ上げるのかなぜ下げるのかというのを報告に引用させていただいたのですね。だからこの報告書案ですけれども、６の分野別評価の総括のところが、例えば行動宣言で「この分野にある５事業はいずれも７．０、７．１と拮抗している」と、この分野は内部評価と外部評価はあまり差がでないところだと思うのですが、分野がもうちょっと先にいくと事業数も多くなってくると、その中でとりたてて取り上げるものも出てくるのではないかと思います。この扉の部分ですが、そのときに議論になったような内部評価と市民評価委員の結論の差があるものを触れるとか、そういうものをやっていただければと思います。

○廣瀬委員長

それと、ベスト３、ワースト３というのはどういたしましょうか。全体のボリュームの中では外してもいいのではないかというご意見も出ていたところです。他方でここはいいんだと、ここは頑張ってということでいえば、一定の意義があるのも事実ですが。

○延原委員

評価は別にして、冒頭、去年長野委員がしゃべった部分のところはさらっと言わなければいけないでしょう。ベスト３は、こんなものがありました、ワースト３はこんなものがありましたと。それを表に出さなければいけないだろうし、発言もしなければいけない。また、その内容について私はあまり深くコメントしなくてもいいのではないかと思います。２１年度と２２年度の比較の方をより時間をとった方が良いでしょう。

○廣瀬委員長

今年のベストとワーストの資料は、このＡ３の下のほうにありますが、３つにというと３つに絞れないというか。

○延原委員

いや、もちろん３である必要もないのですが。

○栗原委員

前回言ったのは、多分僕だと思うのですが、話がずれてしまうのかもしれないのですけれども、ベスト３というのは相対になりますよね。絶対的に数値を付けたものを、あえて横に並べて順位を付けることに意味があるのかなと思うのです。逆に例えば、こういったベスト３、ワースト３というのをやりたいというのであれば、評価委員会として注目すべきもの、数値ではなく、つまりそれぞれの絶対評価したものでなく、ここは注目したほうがいいのではないのか

とか、次どうにかしたらいいのではないか、というようなそういう視点で相手方ベストとか、逆に終わってしまってどうでもいいものをワーストにするとか、そういう見方にするほうがいいのではないかと個人的にはよいと思います。

○三浦委員

私もちょうどそれと同じような意見を持っていて、全部横並びに見たときに、点数が高いのがベストといって、緑のカーテンがベストといってもどうかな、というのがあります。難しいのにがんばっているというのは議論がありましたよね。難しいのに頑張っているのは、例えば「ｂ」でも取り立てたいところがあるし、もっと努力すべきだとか、目標がそもそも低すぎるのではないかという議論が出たワーストとは呼べないかもしれないけれども、がんばるべき事業ということで取り立てたいという気がします。客観的事実ではなくなってきているので、点数で上から３つ、下から３つを出す出さないは評価書の作成上どちらでもいいのですが、コメントするとなると違った視点があったほうがいいかと思います。

○延原委員

まさしくそのとおりで、多選自粛条例などは議会と市長個人の話であって市とはあまり関係がない。こういったものは委員会としてコメントのしようがない。

○廣瀬委員長

政治的関係の中において合意形成を図ってください。それで形成ができればすっとできるでしょうし、合意ができなければできないというものであって、市の仕事として何か改善をしてきたとか、そういう種類のものではないですね。

○事務局職員

これは、事務局内部でも話したのですが、昨年の場合はベスト３とかワースト３という形でしか書けなかったというか、それしかなかったということであったのではないのかなと思います。今年は、三浦委員がおっしゃったように去年との比較とかいろいろありますので、栗原委員がおっしゃたように優先度が低くなるのではないかと思います。

○廣瀬委員長

全体の概要を説明するときに、高い点を取ったものとしてこういうものがあり、点が低かったものにこういうものがありましたというのをさらっと紹介をする程度で、あらためて章立てするようなものではないという位置付けでよろしいでしょうか。

○延原委員

委員会として市民の方に集まっていただいて評価結果を報告することは義務であるから当然行うとして、私が一番知りたいのは、市民の方も知りたいと思いますが、市役所のスタッフが我々の評価内容を自分達のところにどれほどフィードバックしているのかということです。それによっては少ししゃべり方が変わってくるのかなと思います。委員会で言っていることは放っておけばいいやというならば、相当きつく発言をしなければいけないでしょうし、いやいや何割かの部署は来年はきちんとしようとしていますよというならば、そんな

にきつい表現はとる必要はないものと思います。委員長のご意見を聞いてみようと思います。

○廣瀬委員長

おそらく、極めて個別的な個々の事業単位の評価については、相当注意をしておられるというのはあると思います。ただそれが指摘されたからといって、簡単に修正できるものと、相手方があるなど、いろいろな事情でなかなかできないものもあるので、反映の仕方については多少違いはあるでしょうし、あるいは高齢者サロンなどはそういう例なのかもしれませんけれども、指摘をして課題として気がついたけれども、ある種理解の度合いにおいて必ずしも十分ではなくて、とりあえず理解された範囲で対応されようと資料にも新しいものがでてきたのだけれど、そうすると市の取組としての評価はどこまで見るのだろうかという新しい課題に我々が今年気が付いてくると、それを指摘されてみると、なるほどなと、さらにそこまで気が付かなければいけなかったのだなというところまで前回至ったのですよね。そういうものもあるのだと、かなり客観的な指摘レベルでもメッセージは伝わっていくのではないかと思いますけれども。

○事務局職員

我々も、私がどこまでお答えしていいのかわからないのですけれども、やはり、感覚的にいろいろご議論いただいた中で、大半のものは認識の度合いごとに所管ごとに温度差があったにしてもやはり通常、我々行政として仕事をする中で毎年課題として出てくるものをそれがその課題としてあるけれども、通常忙しさにかまけて放ったらかしにしたような話は改めて改善すべき点としてご指摘をいただいたというものが多かったような感じがしています

それでいくつか、確かにおそらく通常やる中ではこう頭に思い浮ばなかった観点でご指摘をいただいた点があったかと思います。そこから先の話はやるときに当たってはわかってはいるのだけれども、うまくいかないといったような行政の中では常々どの所管課でも持っていますので、やはりやらなければならない思いは所管課で持っていますので、基本的にはなるべく対応しようというものが別にあると思います。ただ、個別に見ると必ずしもそうとはいえないものも出てくるのではと、全部が全部というのはなかなか、こちらも自信を持って全部やりますというのは申し上げることはできないということだと思います。

○延原委員

ということは、我々のこの委員会は市の金を使ってやっているわけですけれど、何らかの効果は上がっていると見ておられるのですか。

○事務局職員

事業として反映されているのもありますし、一番は私が今年一年間やった経験として感じているのは、ここに来て説明したのは市の管理職、課長級ですけれども、今まで議会に対しての説明はしているし、所管と関係するところとある程度の共通のベースを持っている人達に自分達のやっていることについての説明をするということはやってきているのですけれども、そういうのではな

いと自分達がやっていることを市民の方に説明してご理解いただくということを今まで、ある意味そういう経験をしてこなかったというのは、去年、今年のこういう場でそういう意味での経験をさせていただいたのは定性的ではありますけれども、一番市役所の中では効いているのかと思います。それは、どこまで施策に結びつけていくのかなというところではある意味違うクッションが入りますので、そこでできているもの、できていないものというのが伝わると思います。やや定性的というか感覚的な話で申し訳ないですけれども。

○延原委員

評価委員会としてやる以上は、我々の住んでいるさいたま市がよくなっていかないと意味がないわけで。

○栗原委員

それは、例えば評価委員会の委員としての視点としてはいいのではないのかと思うのですが。例えば、延原委員がいつもおっしゃっている目的が目標が明確でないというような趣旨の発言をされますね。それって実は去年から言っていることで改善されたこともいっぱいあるのですね。逆にまったく去年言ったのに何も全然変わっていないというのもあるのですよね。同じような目標を立てて同じようなことをやっているような、それは多分聞いていないのだなという話になるのだと思うのですよね。そういったところには、仮にも僕らがここでやっている以上は指摘してもいいのではないかと思うのです。逆に市民の目から直していただかないとせっかくここに呼ばれて時間をつくっているのに、では何なのかということになりかねない話だと思います。

○事務局職員

今回、提言という項目がありますから延原さんのそういうのもその中にという話も考えられないことはないのですが、ただし市の側からするとちょっと恥ずかしいといいますか、そのような形になるのかなと思います。

○延原委員

恥ずかしいことを言われたほうが市のためになるのであれば、ぼくは第三者的に言ったほうがいいと思います。市のために、市民のために。

○廣瀬委員長

定性的にでも、例えば去年は全事業ヒアリングをやり、今年は５０事業ですが。去年と今年のヒアリングのときの話の噛み合い方ですとか。最初のそもそも説明の仕方というところで進化したというか変わったと感じる部分はあるし、こういう領域はなかなか変わらないのだなと思うのもあったと思いますし、それをどこかに表現を整理することはあるのだと思うし、個別のこの事業はだめだからという話ではなくて、例えば傾向としてこういう点についての修正が去年今年とやってきて、こういう領域の観点については大分改善された印象はあるのだけれども、この観点はなかなか変わらないものですね、ということはありうるのかなという感じがします。

○延原委員

去年に長野委員がしゃべった部分か、冒頭の委員長の総括かどこかそういうところに入れてくれるならば、非常にいいと思います。あまり聞いてくれてい

ないのならばきついことを言おうかと思ったわけです。

○木島委員

そこのところ、私もちょっと詳しく聞きたくて、入れさせていただいたのですが、我々がした評価というのは持ち帰ったあとはどうなっているのかなと。こういうことを言われたなと終わってしまっているのか、それとも一般の会社でいうとそれが給与に反映したりとか、そういった部分もあるのかなということになるのですが、どういう形になっているのかお示しいただければと思いまして。

○事務局職員

いただいたご指摘の中では、多分２種類ありまして、すぐできることと予算的に対応しなければならないこととがあって、予算的に対応しなければならないこととしては実は今回初めてでして、去年は時期的に次年度の予算に反映できなかった、あるいは初年度ですから準備がそこまでできなかったというのがありますけれども、今回は２年目でこの時期やっていますので、今回これから予算編成をやるところですので、そういった意味でどう反映していくかということですが、それは所管課のほうで一義的には来年度の予算要求をするところですので、我々も全体を見る立場ですので、それがきちっと反映されているかどうかをチェックをするということは我々も予算編成の中に参画しますのでそのときにチェックをするという形になります。

それ以外の部分に関しては、既にできている部分とできていない部分があろうかと思いますけれども、それも同じような形でですね、言われたことを放ったらかしにしないようにさせるというのが、市役所の中では我々のミッションでありますので、それは正直委員会で報告書のつくる作業をする中では現時点では正直十分にはできていない状況です。それはあとで我々の仕事としてやるということです。

○廣瀬委員長

ここまででてきた中で指摘はされているけれども、具体的にそれではここまでの作業としてできていないのは、重点事業かあるいは注目すべき事業、あるいはさらにいえばそれを選ぶ基準としては、難しいものを頑張っているのはこれだというものを、それをどう選ぶのかは選び出したものを確定してからの評価というのは議論がなされていますので、当然それを選び出すというのはここで、議論の対象となったものということになるでしょうから、それが定まればそれをどう評価し報告するかはおのずと出てくるのですが、これは具体的にこの事業とこの事業はこの委員会では今年においてやはり大きかったねとか、あるいは、またこれは市民にちゃんと伝えるべきだという具体的にイメージされていましたらご発言いただければと思います。

○木島委員

時間をいただけますでしょうか。思い出すのに時間がかかるので、宿題というわけにはいきませんでしょうか。

○延原委員

去年と今年の比較とは別立てで、重点分野として市として大事に扱ってくだ

さいと思うものが２項目あります。一つは収入増を図るための施策の部分、即ち本社機能や新規会社をどれだけ誘致しましたかという部分が一つ。それからもう一つは３．１１災害を踏まえて、去年も重点項目に挙がっているけれども、災害時の市のシステム、本部機能内容、携帯電話でスタッフが何分間で集まれるか、本部機能が何時間で立ち上がるのかという、災害時に市民を守るために絶対的な機能の事業、この二つは非常に重要な項目だと思います。

○木島委員

市民の方がこれだけでなくて興味を持たれるものというのを何か選ぶことはできないのかなと思うのですが。市長がタウンミーティングとかで回られているところで興味深いものですとか。報告書で市の方々のほうで何か思い当たるものがあればと思うのですが。

○延原委員

去年のアンケートの中で市民が取り上げてほしいとかいうのが上のほうにあった気がしますが。

○事務局職員

多分、市民といったときに、いろいろな層がありますので、一つは去年の報告会に来られるという認知で参集される市民の皆さん、もっと広く一般的な話で申し上げるならば、我々のほうでは市民の皆さまのアンケートを広報セクションのほうで毎年一定層のアンケートをやっておりまして、その中では、その傾向分析を取るために広報紙として重点にいれてほしいもの、あるいは重要と思っている分野というのを毎年、経年で取っていますので、私のうろ覚えですが、確か高齢者施策が一番高かったと記憶しています。市全体の母数が広いという意味ではそういったものもやっております。

○木島委員

延原委員が言われたのもいい案だと思うのですが、去年の出席者の職業に偏りがありますよね。

○延原委員

母集団には偏りがあるものですよ。

○木島委員

公務員の方がとても多くて、そうすると市民の意見といえるかかどうか。

○延原委員

何だっていいのです。木島委員の基本アイデアには賛成します。

○木島委員

ありがとうございます。プラス一般の方々からの意見があればありがたいなと思います。

○伊藤委員

私は、自治会という格好で来ているのですけれども、自治会だけでこの評価をしたらおもしろいと思う。一番厳しいものになると思うのですが、例えば行動宣言にしてもね、前にも言いましたが、こういう会議、評価委員会をやって開催しますということに対しても、その結果どういうことがあって、それをどういう目標でとらえることができるということをね、きちんとそこまでやって

いなくて、ただ回数ばかりうたっているでしょう。それでは見ただけで相手にしないですよね。中身が何だっていうのか。例えば、行政の改革にしてもですね。すべて自治会はそういう議論にとらえると思います。言い方を変えると自治会という扱いにしていますけれども全部、市民ですからね。そういうことを考えると、私が発言すると点数が平均点より低くなってしまうのであまり発言しないので、その辺は理解しておいてください。

○木島委員

一つの視点として報告会の中に入れるというのはどうでしょうか。

○伊藤委員

これをただ単純にこういうことで今、評価している最中ですけれども、皆さんだったら、１０点法でいうと何点ですかというと、これが果たして効果があるのかないのとか、何を言っているのかとか、そういうところまでチェックするところまでいくと、かなり要らないものもたくさん出てきてしまうのですね。

○事務局職員

やはり、自治会の方は行政とある程度お付き合いがあって、数値としてはこうだけれども、実態としてはこうだという部分があって、そこは数値管理では見落としてしまうところではありますので、それは総括的なところの目標を立てて数値としてやることは大事だけれども、逆に形だけになってはいけないというのは当然心してやらなければならないところであると思います。そういった部分も評価の一つに入っていただけているというのは、我々は真摯に受け止めなければならないと思います。

○伊藤委員

我々の発言というのはそういうことなのです。

○事務局職員

大ベテランのコメントの中に入れさせていただきます。

○栗原委員

今のは結構おもしろい視点かなと思うのです。皆さんそれぞれ公募としていらっしゃる方、いろいろな方がいらっしゃると思うのですけれども、皆さん出身母体というのがあると思うのですが、会社であったり全然違うところだったかと思うのですけれども、これはもしかしたらしあわせ倍増プランの最後のところでいうべきことなのかもしれませんけれども、自分の出身母体なりの意見があると思うのです。例えば、僕は商店街の人間なので、商という目からどうしても見たいところがあるのですね。でもそれってそれぞれの数の多さの問題であったり、こうやって商業に関するところって極端に少なくてですね。そういった意味では、このしあわせ倍増プランというのはこういった感じでしたかというところで意見があってもいいのかなと。実はいろいろな人がいろいろな意見をもっていて、自分の目から見たらこうだったよと、多分同じ業界、団体の人ならば少なからずそうなのかと共感してくれるところがあると思うので、いろいろな人の視点を入れるのであれば、それもあってもいいのかなと思います。

○延原委員

つまらないことをふと思いついてしまいました。最終年度の平成２４年度の評価は２５年にやるのですよね。

○事務局職員

倍増プラン上はそういう予定をしています。

○延原委員

４年目の評価はしない可能性もありますね。市長が変わっていて、やらない可能性もありますね。

○事務局職員

やらない可能性もあります。それからもう一つは来年度の評価はどうするのかということで、これから我々が考えなければならないことなのですけれども、４年目に３年目の評価をします。それから４年間トータルではないけれども、例えば３年半ぐらいの評価をどうするかというのが最終年度の論点になりまして、これは来年の評価を考えるときに議論になるかもしれないと思います。

○木島委員

一つの案なのですが、伊藤委員の言われたところや栗原委員が言われたところを、個別に掘り下げていく事業をピックアップする上で、例えば一つは自治会の視点でこうとか、クローズアップみたいなことができないのかと思います。

○廣瀬委員長

自治会との関連でいうと、前回ヒアリングをした高齢者サロンのことなどは地域が自主的にやっているものもあり、またそれから市の施策として同じような取組をやっているものあり、その実態というものをどう見て、それを総合して、さいたま市内で高齢者の生活の質であるとか、コミュニティとか、ちゃんと現場に即して見ていますかというやりとりもありましたよね。例えば、その項目などは、そういう視点から検証をしていく典型的な例ですよね。

○伊藤委員

今、委員長が言ったそういう視点をそれから社協とか民生委員とか社会福祉の関係、あの関係は今までは前にも言ったと思うのですが、市長がトップでやっていたわけですよね。それを切り出してしまったために、そういうことを無視してですね。外しておきながらここで評価するっていうのは変な話ですよねと前にも言ったとおりです。だからそういうことが平気で行われていること自体が、異常ですよねと言っているのです。

責任あるものが責任をもって高齢者の時代を担っていくという覚悟のもとに、そういう評価をしなければならない、方向付けをしなければいけないのに、切り出しておいて私は責任者になりませんよと、切っちゃっておいて、それで評価はするっていうことはあってもいいのですかね。そういうことはいろいろ言い出すと切りがないことがいっぱいあるので、非常に私が言うと違う方向にいってしまうので、だからついつい控え目にしているのですけれども。

○事務局職員

先ほどの委員会として、これはできている、これはできていないという話をいろいろお伺いして思ったのは、一つは委員会として頑張っているものベスト３、もっと頑張るべしベスト３とかというやり方もあると思いますし、それか

らそれぞれバックボーンが違う委員さんの方々がお集まりいただきましたので、それぞれの目から見たらこういうことは頑張ってほしい、あるいはこういうのはよくやっているというふうなものを各委員さんの所感という形でお願いした中に入っていましたが、そういった形で触れていただくというのも、それはそれで多分いろいろな傾向が出てくるのかと思います。そういう考え方もあるのではと思っています。

○三浦委員

去年の報告会の時に会場のご意見で結構手厳しいものがありました。この報告書の後ろについている委員の所感が甘い、委員になって勉強したから何だというのがありまして、僕は今回このペーパーが来たので、心して書かなければいけないなと思っているのですが。逆に、一委員として個人的な価値観を出せるスペースかなと思うのです。その政策が自分の考え方や価値観に多少合う、合わないという形を委員会見解としてすり合わせるのは無理だと思うのです。そうすると、個人的にこの事業は注目して頑張るべきと期待をしますとかいうコメントは、自分のスペースに書こうかなとちょうど思っていたところなのです。ある程度そういう理解のもとにコメントを書くことになっていれば安心して書けます。

○木島委員

このページの所感のところを全体所感ということではなくて、各自が自分の気に入ったというか取り上げたい事業についてのコメントを入れる、見解みたいなものをつくる、ということでしょうか。

○三浦委員

そうですね。

○廣瀬委員長

統一見解をではなくて。

○廣瀬委員長

自分の観点からの評価を書いてもいい欄はここですよということですね。他方で、委員会の場で議論をして全体としてこういう評価ですねということを確認していったものについて、そこの手前の段階の委員会としての評価報告はその範囲でやるということに。

○延原委員

思い切って、委員所感のあり方を昨年とは変えてしまう。基本的なことは委員長と委員長職務代理に全部しゃべってもらい、委員は全体的なことはコメントしない。各委員は委員所感として、自分にとって重要と思うところのみをしゃべる。もちろん文章として残すのですが。委員所感のところの文章の量を倍くらいにさせてもらって、それを残しておく。

こうしたやり方もある。その代わり総括的なところ、あるいは大まかなところは委員長、委員長職務代理に任せてしまう。去年のように各委員が全体の項目を分担してしゃべることはしない、というのも一つのやり方だと思う。

○事務局職員

先ほど三浦委員からご提案がありましたけれども、報告書のつくりと報告会

をパラレルに考えたときに、分野別の評価の個票的なところを後ろに回してというのがありましたけれども、報告会でどうフィードバックするかというところで、去年は報告会で分野ごとに委員さんにご報告いただきました。

それで、今日もそれを前提に発表の委員の割り振りをつくってきたのですけれども、逆にその分野別のそういうところを総括的にはじめに分析をもってきて、報告会でもそういう総括的な報告をしますということであると、委員さんに何を報告していただいたらいいのかと思っておりましたので、その代わりにそういう形でしゃべっていただくと、多分、報告会としては報告の部分がぐっと縮まって、あとの意見交換の時間が十分とれるという気がします。

○廣瀬委員長

報告会については、これから確認をしたいと思いますが、その前に作業も着手していただかなければならないので、報告書のフォーマットについてはそろそろ取りまとめていただかなければならないと思います。

ここまで議論をしてきたところでは、個別というか領域別の個票の取りまとめの部分については後ろの方にもっていくということで、どちらかというと資料編ではないにしても詳細は後ろにもっていって、分析的要素を前に持ってくると、その前半の分析的なところを読めば、ポイントは何だったのかということが見えやすくするということから、今回の目次でいえば全体分析別の７になっている話をもってくるという話が一つで、もう一つが特にこういう観点は注目したというか、こういう事業を特に取り出そうというのをやるかやらないかということですかね。個々の観点で取り上げて、こういう視点から見るとこうだったという部分はあっていいと思うのですが、それはそれとしてあるとしても、例えばその災害時のシステムの問題であるとか、これは個別の委員の見解というよりは、今年の委員会としてはこういう観点から改めて注目をしてみてこうだったという意義、あるいはそういう必要性はあるとは思うのですが、そういう観点で取り上げるべきものとして収入増を図るもの、３．１１を踏まえてのこと、あるいはまた高齢者サロンのような市民の活動と市の施策というものが線が引けるわけではないのだけれども、相対的にそれは政策目的には効いてくれるようなものを一例として取り上げて、市民協働という言葉が流行っていますけれども、そういう領域についての評価の視点という観点からそこは特にもうちょっとそういうことに現場主義的にやれませんかという観点からの取り上げ方をする。今の議論の中で例示的に出てきたものはそういうものありました。

これらは委員会の場でも議論をしたし、おおむね重要視する視点はここに共通していたようにも思うのですけれども、これらはこれらで重点事業というか注目すべき事業として取り上げるという方がポイントが絞れるといいますか、何がポイントだったのかという時に今年の評価においては大震災を受けて災害時のさいたま市はどうなのかという観点、市民との協働の中の市の責任や現場感覚という話、それから市が収入増を図っていく観点から、どう成果を上げているのかということを重点的にピックアップしました。それにそういうことでいえば、もう少しこれもあるのではないかということがありましたら、でき

るだけ近々にご提案をいただいて、それ程多くなければそれは盛り込む方向で次回委員会へ向けてたたき台というよりはこれでどうだというような素案として、議事録の中からここで議論をしたポイントを取りまとめるということだったと思いますが、どうでしょうか。

その上で、目次の７の（２）までいったところで、まず、分野別の評価で並べ、そしてその後ろに今度は各委員からの視点から書いてよいという了解で、委員所感というものを載せる。目次の原案でいうと、４と５についてはあえて章立てをするということではなくて、全体の概要の中でさらっとどういうものが高評価になり、どういうものが低かったのかを紹介するということにとどめると、ここまでの議論はそういうような感じだったと思うのですが、よろしいでしょうか。

では、報告書については次回に向けてそういう観点で作業を進めていただくということにしたいと思います。

○木島委員

できればお願いなのですが、この報告書案の７ページはよくまとまっていると思うのですけれども、これでもまだ情報が多過ぎる気がしています。ビジュアルでぱっと見たときに、１ページ１個が理想かなと思っています。できるだけ見る気になるようなものにしていただければと思います。

○廣瀬委員長

このような感じにしたらというアイデアがありましたらお願いします。

○木島委員

プレゼンテーションの時などは１スライド１情報ぐらいが基本だと思っていますので。

○事務局職員

報告書のつくり方でもありますけれども、先ほど話もありましたが、報告会でのパワーポイント資料ですが、逆に言うとそれを縮小した感じで、報告書の後ろにつければ報告書の概要になると思いますので、ちょっと本体の部分と概要の部分と、我々が言うのも何なのですがこういうような分厚い報告書は誰も読まないので、当然ただ必要なものは報告書を読んでもらえれば詳しくわかるし、端的には情報量をある程度絞って逆に読んだ人に言いたいことはこれだということをわかるようにしなければいけませんので、報告書と当日の発表資料とセットで考えたいと思います。

○廣瀬委員長

当日の報告会の発表の仕方ですが、これを検討していきたいと思います。進め方（案）というものがありますけれども、これは前回のような構成で案としてつくっていただいておりますけれども、ここまでの議論の中で分野別の総括シートにおおむね従いながら、担当した委員が確か二人組ずつぐらいでやったかと思うのですが、順次報告していくということを前回はやりました。おおむねその構成をとるとこの案ということになります。

今の議論の中では、それをもうやめてしまったらどうかということであります。ですから概要のところと、これでいうと８の総括となっていますが、報告

書におけるフィードバックの観点、それから評価の枠組についての提言というものをイメージしているかと思います。その報告を正副委員長がやった後、各委員のそれぞれの観点から個別的な視点における取り上げたい事業についての評価報告をしていただくという案が出ています。その場合は、そのときお一人当たりの時間によりますけれども、そこはポイントを絞ってもらうということを前提に、例えば３、４分ぐらいでやっていただくとすると、質疑応答にかけられる時間がこれよりも多少長くとれるということになるのかと思います。

○林委員

各委員３、４分ぐらいで自分の所感を述べるということですか。

○廣瀬委員長

委員会としての評価を前半にやり、後半はこれに参加した各委員が自分の視点から見てこうだった、ここにポイントが表れているというのを取り上げていただいて、所感というよりも自分の視点からの評価、評価報告とかそうしたイメージかなと思います。

○林委員

全体を通して自分が、ということでしょうか。前半で委員長さんとか長野委員が全体をさらっと３０分ぐらいやって、後は各委員から３、４分でクローズアップしたところを述べるということですよね。何かちょっと誤解をしておりまして、３０分でさらっとやるのではなくて、その各委員の所感というのが主になって、総括と所感で聞いている方が、何も知識がなくて来たら何をやっているのだろうと思うような内容にならないようにしたいなと思うので。去年と同じようにちょっと時間は短めでも、その全体をこういうものでした、それでこういう評価になりました。というのはもちろん入るわけではないですよね、３０分とかで。

○廣瀬委員長

去年の例でいうと、概要をまず紹介をしていっていただいた後で、各分野ごとの特徴を述べた報告書でいうと分野の頭にあるシートのそれの概要が順次説明されていく、そのような進行だった気がします。そうすると、宣言が二つと８分野がありますので、それが順次、次から次へと出てきてそれぞれについては内容については細かく触れてはいけない。ここは進んだけれどもここはなかなか伸び悩みましたというようなことを含めての概要がざっと８事業続いていきましたので、はっきり言ってずっと評価をやってきた我々には伝わってくるのだけれども、その時は初めて触れる方にとってみると、何というか説明は少ないけれども全体はカバーしようとするので、かえって伝わらなかったのではないかと思います。そこは領域別にはこうで、この領域はうまくいってと、この事業はこうでうまくいっていませんという査証をして、全体の概要としてこういう特徴がありましたということを説明して、その上で特にフィードバックという観点からいうと、ここに課題がありました、こんな課題、こんな課題、こんな課題があったのではないでしょうかと。それから改善されたということで注目すべきものとしてはこういうものがありました。それからなかなか低迷したままになっているものについて、こういう観点での改善が求められます。

さらに「ａ」になっているけれども、ある意味、完了してしまったものについてこれからどうするのかということについて、ものによっては次のステップも明示してさらに進んでいただきたいのもあるし、一たん完了したということで、ここで完了宣言というか、そういうもので閉じるというふうに位置付けて完了するというものもあってもいいのではないかと、というような評価の枠組みについての分析をする。

ここまで私のイメージで２０分ぐらいでそれを聞くと、とにかく全体としてこのような評価だったのだということは何となくわかる。それが委員会全体としての報告で、多様な市民各層から委員が出ていただいていますから、今度はここから先については委員会として発言はされていたけれども、必ずしもここまでの委員会全体としての評価には載ってこないことを含めて、各委員のそれぞれの視点から今年も評価をやってみて、特にこれからポイントだということについて簡単に、例えば３分ずつご説明をいただくと。

○林委員

去年の経験を踏まえて言われているので、そちらの方がわかりやすければそちらで構わないと思います。

○事務局職員

今、林委員が心配されていますのは、例えば健康・安全・安心が１７事業あるのですけれども、極端な話、各委員が全部ここに集中するという可能性があるという意味でご心配かもわからないのですが。例えば、この②から⑦ぐらいまで２、３人ぐらいを分担して自分の言いたい、注目すべき事業が入っている分野を希望していただいて、そこがあまり多かったらほかに探してもらうような感じで、できればある程度全体の分野から一つぐらいずつ出るような形のほうが、聞いているほうとしてもこう全体がわかる気がいたします。

○廣瀬委員長

バランスがいいことはいいですね。

○三浦委員

逆に僕は懸念をするのですね。もしそういうやり方をするのであれば、委員会としての共通見解という発言にしないと、誤解を招くのではないでしょうか。最後に委員が個別見解をするという趣旨は、少し共通化されていなくても私はこう思ったということを入れていいということでした。けれども、聞いている方におしなべて評価はこうでしたとわかるようにバランスよく委員がばらけるというのは、何かその前段の委員長と副委員長の報告の延長線上のように受け止められかねないですよね。委員会として離れ値を切ったりしているわけだから、委員会として合意して、市役所に提示した点数はこれこれで、こういうコメントで、こういう評価であったというのと、なお個人的な立場とか普段の経験を含めて、ここはこだわるというようなコメントを言う場面は少し線を引いた方がいいと思うのです。

○事務局職員

自然体に任せるというようなことでしょうか。

○延原委員

完全に同じ項目が重ならないように、重なったときはどちらかがじゃんけんでもして決めればいいのであって、それ以外は全く自由で良いのではないですか。だからスタッフは大変ですよ、何を我々が取り上げるかなどは今度はわからないのですから。

○木島委員

総論は賛成ですけれども、林委員が言われたことと同様に懸念がありまして、最初はきれいにまとまって報告があったのに、そのあと１０何人からバラバラといろいろな意見が出てくると、いったい何だったのかと。私も結論が確定していないのですが、一つの案として、やはり提言をされたいという案をいくつか出して、その中で絞らせてもらうとか、一つの手段としてあるのではないかと思うのですが。

○猪野委員

最後に、委員長が僕らが全員述べた上で最終的に僕らの分布みたいなものを言って。

○事務局職員

いずれにしても、最後にまとめみたいなものが必要かと思います。

○延原委員

僕も基本的には三浦さんと同じで、我々の総意というのは委員長と委員長職務代理にしゃべってもらい、その総意からそれほど逸脱する行為はしませんから。委員長がああ言っているけれども、私は違うとは言わないですから。各個人のバックグラウンドによる特徴ある発言というのは自由さを維持する上で、多分大事なのではないかと思います。

○木島委員

本当に考え方は賛成なのですが、自由に１０何人ばらばら出たときどのような感じになるのかを考えると、どうでしょうか。

○林委員

まとまりがあったほうがいいと思うので。

○廣瀬委員長

去年はまとまりはあったと思うのです。ある意味、枠の中では丁寧にというか、枠に忠実に表現をしなければならないということの前提で担当していただきました。ある意味、聞いている側からすると、例えばその人の顔が見えにくいのですね。それがずっと続いていくことによる聞きづらさみたいなものは、かえってあったのではないかという感想は若干あります。それよりは自分の顔を表に出してしゃべっていただいたほうが、かえって聞いている側にとってみると、聞きやすいというか、受け止めやすいのではないのかなと思います。ある程度フォーマルに与えられた役割をこなすという要素が、去年の報告会の各領域ごとの各分野ごとの説明の中にはありましたので、それは結果、文章で読むとまとまってはいるのだろうけれども、聞いている分にはある意味どうしても平板になってしまって、つらい部分もあったのではないでしょうか。

○事務局職員

一つは時間との関係もありまして、当然全体のこともありますけれども、委

員長、副委員長を除いて１２名いらっしゃいます。４分しゃべると、それだけで４８分かかるわけで、３分でも３６分かかります。そこはもう少し絞ったほうが印象に残るかもしれないのかなという感じがします。やはり、そういうような会議で一人ずつしゃべるとなると、例えば市長のタウンミーティングなのですけれども、一人３分ぐらいずつしゃべっていただくのですけれど、トータルで１時間とか１時間半とか２時間ぐらいで議論をしますと、多分それだけになってしまうと、はじめの委員長、副委員長でまとめたところが逆に薄れてしまう感じが出てくるかもしれませんので、そこは全体の時間のバランスをどういうふうに取るかで、発表の仕方になるのかなという感じがしますけれども。

○林委員

あと質疑応答の３０分ないし、もっととりたいということなのですよね。そうやって各個人が発表をすることで、あの人がああ言ったことについてその人本人に質疑が集中してしまうかもしれないですし、ということもあるのかなと思います。

○延原委員

別に回答すればいいではないですか。個人名で我々は出ているのであるから。

○林委員

何か評価ということに集中させたいかなと思うのですが。まだよくわからないものですから。ちょっとどういうふうになっていくのかが実際に。

○木島委員

一番避けたいのは、去年はちょっとわからないのですが、同じような発表が発表者は変わるけれどずっと続いていく、ということです。先ほど委員長が言われたのは個々に発言されれば、そういうイメージにはならないということですよね。

○廣瀬委員長

いい意味でのキャラクターがちゃんと見えてくるようにしゃべっていただいたほうが単調にはならない。その中で自分の波長に合うというか、ストンと落ちてくるようなものには特に注意をして聞いていただくというメリハリが聴衆の中ではつけやすいのではないのかなと思います。

○木島委員

それが仮に１０何人続いてもおそらくまた何かというイメージにはならないでしょうか。

○廣瀬委員長

なりにくいとは思いますね。フォーマルに全体として、前回のような形のある意味でここの報告書に書いてあることをどう要約するかについてはそれぞれのご担当に任せましたけれども、それをある共通のフォーマットで１０項目について淡々と続くよりは、聞きやすいのではないかと思います。そうしますと、全体の時間配分等を含めて最初の１時間以内で委員会からの報告、各委員からの報告をして、質疑応答をもう少し時間をとれるようにした上で、市長は７分とありますが、これは７分でよろしいのですか。

○事務局職員

ここは全体の中で調整をさせていただきます。

○廣瀬委員長

評価された責任者として、どう受け止めたかということと主張したいこともおありかもしれませんし、実は前回はおおむねというとあれですけれども、かなりの項目が今年は準備といって準備しましたということで順当に「ｂ」という項目がたくさんあって、その意味でいうとある思いを持って取組をしたことに対して、ちょっと想定と違う観点からこのような評価がついた、なるほどとおっしゃっていただけるものもあるかもしれないし、実はこれはこういう思いがあって評価としてはこういうふうに指摘をされましたけれども、こういう面も見てほしいというご発言がひょっとしたらあるかもしれない。となると少し時間があったほうが表現しきれるような気がしますがいかがでしょうか。

○延原委員

去年はほとんどコメントしていないですよね。総合的にしゃべっておられただけで。まあ１年目ですから仕方ないでしょうけれども。

○事務局職員

市長がしゃべる分となると、多分個別の評価の中には市長が力を入れている部分があって、コメントしたい部分があると思います。ただ全体となると、個別よりも総括的な話の分析とかいう報告の形になると、市長がどう思うかというのは私もわかりませんけれども、私の立場で話を聞いた限りとしては、基本的にはご指摘としては全くおっしゃるとおりと思うものばかりですので、受け止めて反映するように努力します、というふうにおっしゃるのではないかと想像はしております。個別の話になればいろいろ発言はあるかもしれません。

○延原委員

多分総論的な見解、あいさつしかできないのではないかと思います。

○三浦委員

よろしいでしょうか。実はまだ私、聞かれていないので答えていないのですが、報告会の日、所用があって出られないのです。そういう委員の方いらっしゃるのではないかと思うのですが。その思いもあって、報告書に載せてもらう所感のところはしっかり書こうと考えています。ですから、必ずしも１４人の発表者がいることでもないのですよね。まだ当日の出欠は確認されていないですよね。

○廣瀬委員長

そうしますと、今日の段階でおわかりになっていれば、ご出席いただけるのが基本だろうと思っていますが、どうしても都合が悪いという方、三浦委員は出られないということですが、ほかはいらっしゃいますか。今日、欠席の委員にはあらためてご確認をいただくということで、そうしますと、前回のように領域を分担するということであれば分担を確定するところまでやらなければいけないと思っていたのですが、そうではない形でやろうという提案になってきていますので、それでやろうとすると全く同じものを何人もの方がやろうとすると調整がいるかと思います。

今日の話のような構成にするとすれば、私はこの事業などを題材にこのよう

なことを話したいというものをご連絡いただいて、調整が必要であれば調整をさせていただくということで、お一人３分ぐらいだとすると、これではお二人で７分ぐらいという想定になっておりますから、全体としてこれよりも６、７分短くできることとなりますので、委員会からの報告全体を５０分少々、そうなると１０分ぐらいは質疑が長くできて、残りは７分と３分とすれば、おおむね１０５分ぐらいですかね。確か１時間４５分で設計されていたので。では、構成はそれでよろしいでしょうか。

○事務局職員

去年のことをお聞きした話ですと、質疑応答を長くするのは構わないですけれども去年も当初そういう話があったらしいけれども、答えなくてはならないのは委員さんですから、結局はちょっと縮まったという話を聞いたのですが、そういうのは特に大丈夫でしょうか。

○延原委員

逆ですよね。事務局案は質疑時間は実に短かったので、いやもっと伸ばしましょうと委員の発言の時間を減らしたのですね。

○事務局職員

結果的にいって当日個別の説明を述べ短でやったので長くなってしまったので質疑の時間が短くなってしまったということですよね。

○延原委員

本来、自分のしゃべるところを圧縮してでも質疑応答を３０分はミニマムとりましょうということでした。

○廣瀬委員長

でもなかなかやはり、各領域での説明をしていくと短くまとめようと思っていたけれども、実際にはなかなか期待したほどコンパクトにはできなかったということですね。

○高島委員

昨年はやはり時間が足りないほどたくさんの質問が出たのですか。

○延原委員

３問ぐらいでしたよね。時間が足りず途中で切っちゃった。ほとんど総論的な質問ばかりであったので各委員が答えるというようなことではなかったですね。

○三浦委員

生の質問はむしろ少なくて、意見を述べられたいという方が多かったですね。

○延原委員

質問ではなくて私はこう思いますといった意見でした。そうすると回答のしようがなくて委員長が答えられた。

○廣瀬委員長

確か最初の方は自分なりの意見の開陳だったですね。

○三浦委員

この事務連絡の回答の締め切りが９月３０日になっていますので、一応私は間に合わせるつもりで報告書の後ろに載る、どの項目に注目するかという視点

で書いてみて、次回は１０月６日でしたよね。その時まで全員でないにしても各委員から事務局の手元にあれば、どこに視点をおくか確認できるということですよね。

○延原委員

これは字数を倍ぐらいにしてもいいですよね。

○廣瀬委員長

今日の話のようなことで書いていただくとすると、この文字数では厳しいと思います。

○事務局職員

本当の所感ということを前提に字数設定をしていましたので、個別の事業をピックアップしていただくと、一たん倍ぐらいということで設定させていただいて、それでも書き足らないという方もあるかもしれません。ちょっとそこは三浦委員の話もありましたように、出てきたものを集約させていただいて、次回のときに議論させていただければと思います。

○廣瀬委員長

それでは、字数についてはおおむねこの倍ぐらいに書いていただいて結構ということで、来週の金曜日９月３０日までに事務局にご提出いただいて、それを受けて皆さんがあまり集中しているようでありましたら、そこで調整をさせていただくということにします。

それでは、こういう形でこのあと進めていきたいと思います。１０月６日の委員会において最終的に報告書の取りまとめ方、１０月１５日当日の進行や発言順などといったことについて確認をしたいと思います。

３　その他

○廣瀬委員長

よろしいでしょうか。

そのほか、何か委員の皆さんからありますでしょうか。

事務局からは何かありますか。

○事務局職員

お手元にお配りいたしました４枚ものの報告会にかかる資料でございますが、その中には会場となる多目的ホールの会場レイアウト図をおつけしております。会場の配置等につきましても次回委員会でご説明したいと思います。

また、４枚目にはチラシをおつけしておりますが、こういった内容で市内公共施設等に配置をし、またポスターを掲出いたします。具体的に市民の方への周知としては１０月号の市報に掲載をいたしておりますのでお目に触れるのではないかと思います。この時期イベントや行事等が多いのでそういったところでも周知に努めたいと思います。

また、このチラシまだできたばかりでございますので、次回委員会ではある程度の部数を委員さんへお渡しいたしたくご用意させていただきたいと思います。

４　閉　会

〇廣瀬委員長

　それでは、また例によりまして前回議事録が配付されていますので、ご確認をよろしくお願いいたします。

　では、以上をもちまして第９回市民評価委員会を閉会とさせていただきたいと思います。お疲れさまでございました。